

視 察 報 告 書

報告者 ネットワークみらい・甲斐 高之

○姫路市 「校内サポートルーム」について 8月26日(火)

姫路市では、不登校傾向を示す児童生徒のための学校における「心の居場所」として、小中学校の余剰教室を改修して、家庭的な雰囲気をもつ教室づくりをすすめ、児童生徒の教室復帰をめざし、校内サポートルームを設置している。現在、小学校51校(未設置18校)、中学校35校に設置しており、未設置校については、校舎の長寿命化工事と合わせて改修を進めている。

成果として、不登校児童生徒指導員や校内の不登校担当との連携で、徐々に登校できるようになった事例等を数多く聞くことができ、必要性和有効性を学ぶことができた。課題として指摘された「静かに過ごしたい人とコミュニケーションをとりたい人とのすみ分けが難しくなった」との学校現場からの声や支援員の勤務時間の関係で引き続き担当する教員の配置の難しさなど、事業内容は本市と少し違うものの、同じような課題であり、姫路市の今後の動向を注視したい。その中でも、「Wi-Fi 環境」の整備や授業のリモート配信など、予算的な課題や担当する教職員の負担増につながらないように考慮しなければならないと感じますが、大分市でも参考になる事例です。また、不登校児童生徒支援員を担う方々が教員退職者以外の方々も数多く活躍されていることを伺い、人材確保の観点からも姫路市の取り組み、特に人員募集や研修内容などについて、今後とも調査研究する必要性を強く感じました。

○浜松市 「ドローン専用航路」について 8月27日(水)

浜松市では、2021年3月に「浜松版 MaaS 構想」を策定し、そのめざす方向性として、「ヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”と浜松の暮らしはもっと輝く」を基本理念として掲げ、「浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム」を官民が連携してプロジェクトを立ち上げ推進体制を形成している。その一環として、ドローンの活用が議論されており、防災・物流・インフラメンテナンスが重点分野として設定され、天竜川水系のドローン航路整備につながっている。2025年3月25日に、実際にドローン航路の仕様や規格を定め、社会実装を行ったのは世界初事例となる開通式を実施。ユースケースとして、①中山間地域におけるドローン医薬品配送、②河川点検などで実践データを収集している。まだ始まったばかりのデータ収集であるので、今後の検証等が楽しみである。

ドローン航路活用に向けての課題として、ドローン航路の認知度の低さ、ドローンの性能や価格、消防ヘリ等との情報共有やルール整備、現行法上の航路の制約等があげられていた。現段階でできる改善策を講じながら、活用の可能性を探っていく取り組みに、大いに期待しているところです。大分市においても、大分川や大野川といった一級河川があり、専用航路を設定し、ドローンを活用した災害対応やインフラ点検等に活かしていく可能性があると思われる。安全性やコスト面での課題も多いが、大分市としても、浜松市など他都市の状況を注視し調査研究を行っていく必要はあると感じました。